

講義における学生のクリエイティビティの習得と活用 「コミュニケーションと表現・同実習」における作品制作の紹介



稚内北星学園大学 地域観光支援室

本支援室副室長の小谷彰宏准教授が担当する「コミュニケーションと表現」及び「コミュニケーションと表現実習」では、アートを紹介したコミュニケーションとして、「身体」を使った表現（パフォーマンス・アート）を学んでいる。講義では、当初一人ひとりの表現実習を想定していたものの、学生同士がディスカッションを行い、創作活動が生まれ、演劇要素を取り入れたシルエットパフォーマンスの実験作品として完成した。

地域観光支援室では、「観光まちづくり」の視点から地(知)の拠点として教育、研究そして社会貢献の側面で果たす大学の役割を日々探求している。小谷准教授の講義で生まれた学生の自主的な創作意欲は、一般公開を前提とした新たな作品作りに進んでおり、その先に作品を通じて「地域にどのように貢献できるだろうか」という投げかけに、学生自身が応えようとする姿勢へとつながっている。このレポートでは、講義の一片を紹介する。

<講義の概要>

● コミュニケーションと表現

携帯電話やインターネットの発達によって誰もが簡単に自らの思いを発信できる状態が実現している。だが、そこには、ややもすると一方的になる陥穽（かんせい 落とし穴）が潜んでいることも忘れてはならない。コミュニケーションにとって重要なのは、自分の意思を伝えると同時に相手の意思を理解することである。この点を大前提としたうえで、例えば上手に会話するだけでなく、音楽やパフォーマンス、アートなどの創作表現や、身振り手振りを含む身体性あるいは情報機器を使った表現といった、さまざまなコミュニケーションを研究対象とするなかから、新しい表現方法の模索や実験を通じて新たなコミュニケーションと表現の関係を考察する。

● コミュニケーションと表現実習

コミュニケーションと表現との関係を「人と人との間」という関係的観点から体験的に学習する。その際、パフォーマンスなどの身体性を中心とする表現や、いくつかの情報機器を組み合わせたメディアアート表現の切り口から、具体的に創作発表することによって、「見て・聞いて・触って・感動する」人（創造者）と人（鑑賞者）との間に何が伝わるか、また何を伝えるかを捉えることを中心にする。

パフォーマンス用の小道具やアート作品を制作し鑑賞または、体験する。

引用：稚内北星学園大学2015年度シラバス（一部抜粋）



写真1 ディスカッションの様子



写真2 背景画像の編集と調整



写真3 スクリーンの調整と準備①



写真4 スクリーンの調整と準備②



写真5 演技とセリフ合わせ①



写真6 演技とセリフ合わせ②

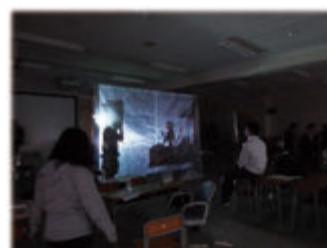


写真7 セリフ合わせと演出の確認①



写真8 セリフ合わせと演出の確認②

<講義、実習でのシルエットパフォーマンス制作の流れ>

- 5月20日 各自個別に立案
- 5月27日 ディスカッションを経て制作へ
- 6月3日 制作及び試演
- 6月10日 調整から実験作品完成、講義での発表

<受講生の声>

- ・皆で1つの作品を作り上げる段階がとても楽しかった。
- ・複数の案を共有し、そこからいい案を出すのがいいと思った。
- ・多人数で何かを作る楽しさ、多人数で協力して何かを作ることの難しさ。
- ・子供向けにして、幼稚園とかでやりたいです。